

(8) 中国



中国地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

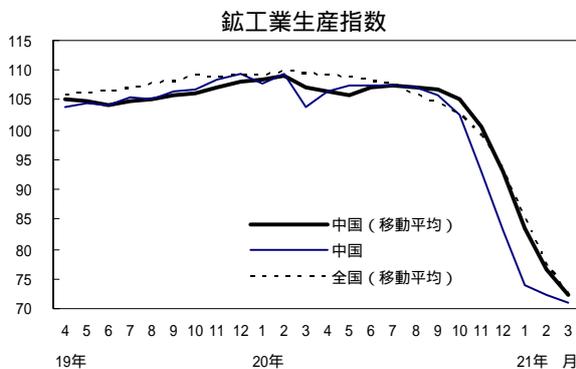
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 2 月)	今回 (平成 21 年 5 月)	
景況判断	急速に悪化	悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりの兆し	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用	極めて急速に悪化しつつある	極めて急速に悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりの兆しが見られる。

鉄鋼は、造船を除くほとんどの業種での需要減退を受けて減少している。化学は、合成ゴムや有機薬品を中心に減少しているものの、足もとでは、在庫調整の進展により、輸出向けの生産が増加しつつある。輸送機械は、国内外需要が落ち込んだことから、減少しているものの、3月は小型自動車等で輸出向け生産が上向いたことなどから、上昇している。一般機械は、海外向けの建設機械の生産が低調だったこと等から、減少している。電子部品・デバイスは、携帯電話向けの固定コンデンサを中心に減少しているものの、3月はモス型半導体集積回路等の生産が上向いたことなどから、上昇している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の大線は後方3か月移動平均。

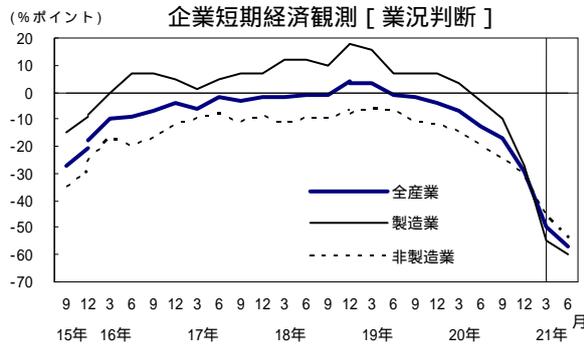
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
鉄鋼	16.5	14.3	32.8	26.8	19.5
化学	16.1	13.3	5.0	4.0	10.6
輸送機械	14.8	19.8	35.7	38.5	23.0
一般機械	10.7	7.9	25.4	22.6	1.4
電子部品・デバイス	7.3	18.2	28.4	29.5	-
鉱工業	100.0	12.9	22.1	19.0	10.5

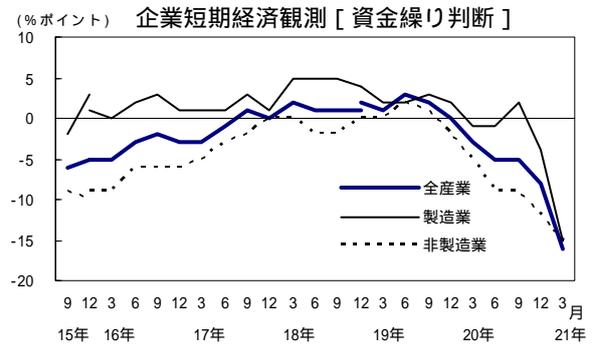
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

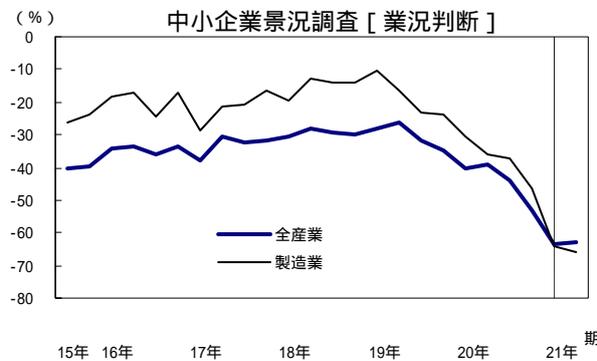
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

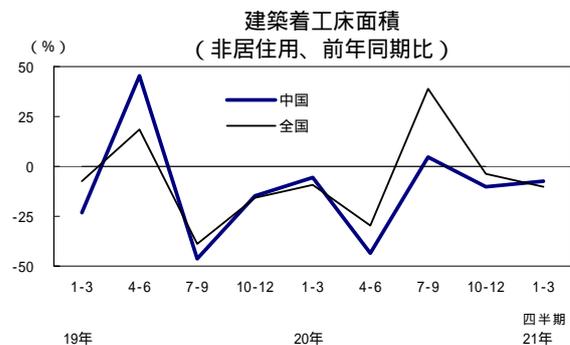
「主要受注先では、中国向けが前年比で増加に転じ、欧州向けも在庫調整が進み、やや回復しているが、主力の北米向けの輸出低迷が継続しており、全体で工場の操業度は前年比6割程度となっている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度見極
全産業	3.6(5.2)	14.7
製造業	12.1(6.9)	18.8
非製造業	11.4(2.6)	9.1

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

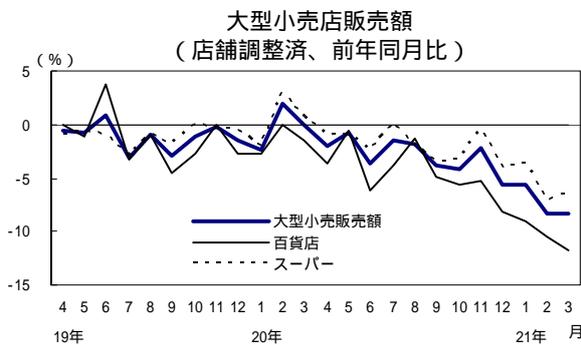
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、物産展やギフト解体セールが好調で飲食料品の動きが良かったものの、冬物衣料が低調だったことから、前年を下回った。2月は、気温が高めだったため、冬物衣料が低調だったことに加え、海外高級ブランドのアクセサリなどの身の回り品や飲食料品が低調だったことから、前年を下回った。3月は、春物衣料が低調で、新生活関連のスーツの動きも悪かったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、4月の中国地区の売上高は、前年同月比で11.0%減となっている。

スーパーは、値下げの動きが拡大するとともに、生鮮食品、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

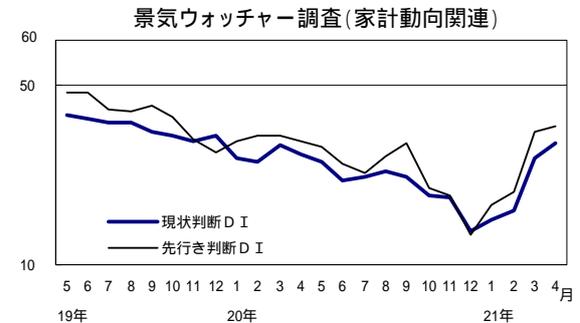
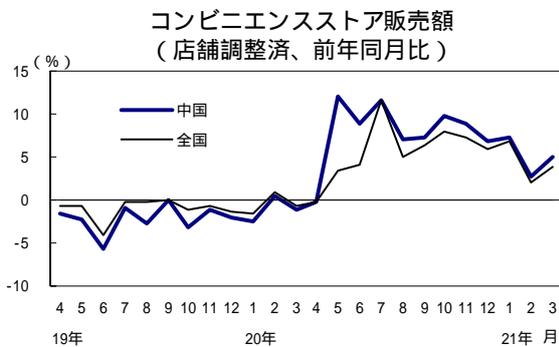
「プレミアム付き商品券のおかげか、しばらく来店がなかった顧客が数十人来店した。少しずつではあるが、客の動きが良くなってきた(その他専門店[布地])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	2.2	2.3	4.1	7.4
百貨店	3.5	3.4	6.5	10.4
スーパー	1.4	1.7	2.7	5.7
コンビニ	6.9	8.6	8.5	5.1
景気ウォッチャー	32.2	30.1	22.7	25.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

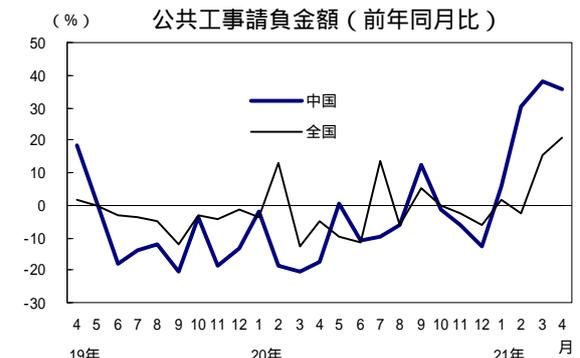
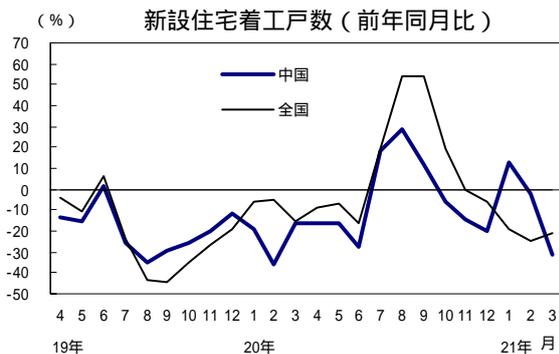
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

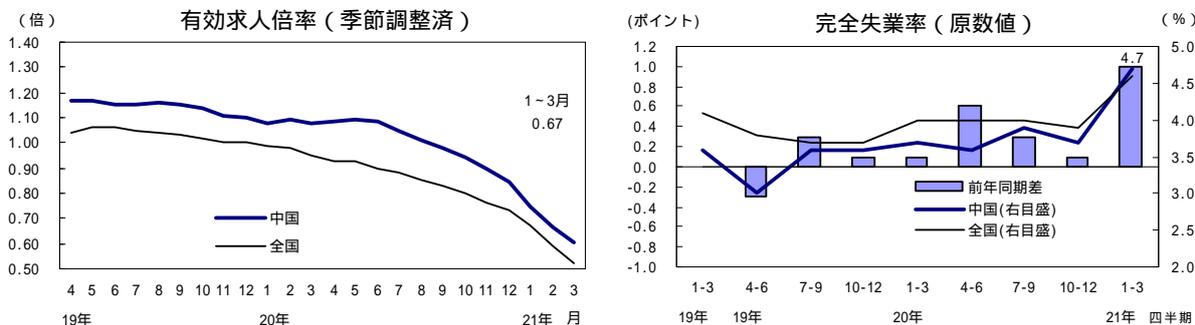


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

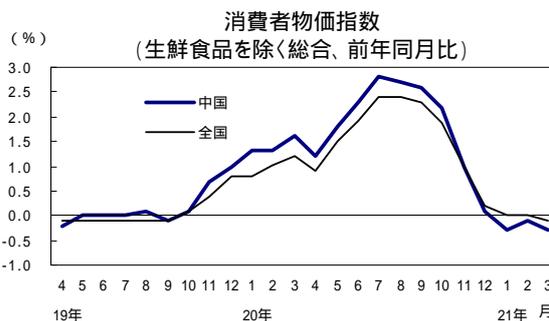
「新規求職者数は前年同月比で約3割増となっている。企業は求人を出せば苦勞しなくても複数の応募者が集まるため、採用選考基準は昨年の同時期と比較して格段と厳しくなっている(職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	199	189	199	178	56
(前年比)	38.2	31.3	27.6	10.6	1.8
負債総額	662	3,289	507	951	220
(前年比)	45.8	266.8	18.8	81.5	6.9



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・地場自動車関連会社にも少しずつではあるが、採用意欲が出てきた。これまでは採用抑制一辺倒であったが、未経験者でもいいから、将来を見据え次世代人材を発掘しておきたいなど、前向きな発言が聞こえ始めた(民間職業紹介機関)

<先行き>

- ・主要顧客の自動車産業は底が見えてきて、今後やや上がり調子になっていく(輸送用機械器具製造業)

